

## 静岡赤十字病院を受診された患者さんへ

当院では下記の臨床研究を実施しております。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用または提供されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせ下さい。

承認番号 研究課題名	NO 2020-02 慶應義塾大学外科・関連多施設における大動脈瘤治療を解析する 観察研究
当院の実施責任者研究 及び職名	静岡赤十字病院 血管外科 部長 新谷 恒弘
他の研究機関および 各施設の研究責任者	統括責任者 尾原 秀明（慶應義塾大学外科 准教授） 和多田 晋（川崎市立川崎病院外科 部長） 内田 智夫（水戸赤十字病院外科 部長） 朝見 淳規（さいたま市立病院外科 部長） 原田 裕久（済生会中央病院血管外科 副院長） 関本 康人（東京医療センター外科 医員） 下河原達也（済生会横浜市東部病院外科 医員） 林 啓太（平塚市民病院外科 医員） 小野 滋司（東京歯科大学市川総合病院血管外科 助教） 東 信良（旭川医科大学血管外科 教授） 荻野 秀光（湘南鎌倉総合病院 非常勤） 大木 隆生（東京慈恵会医科大学血管外科 教授） 古森 公浩（名古屋大学血管外科 教授） 福田 幾夫（弘前大学心臓血管外科 教授） 加藤 雅明（森ノ宮病院 心臓血管外科 部長） 森景 則保（山口大学 心臓血管外科 講師） 善甫 宜哉（関西医科大学心臓血管外科 診療教授）
研究期間（西暦）	研究実施許可日（倫理審査結果通知書発行日）より西暦 2025 年 3 月 31 日まで（状況により、適宜延長を検討する）
研究の目的	動脈瘤に対するステントグラフト内挿術(Endovascular Aneurysm Repair: EVAR)は、従来の人工血管置換術と比較し、低

	<p>侵襲であり、急速に普及している。世界では 1991 年に初例が施行されてから、既に 20 年以上の歴史があり、数々の解析が行われてきている。その一方、日本では EVAR が 2007 年に初めて施行可能となったこともあり、文献検索を行っても、長期成績を含め解析が行われたものはわずかしかない。しかしながら、日本人を含めアジア人は、解剖学的にも、さらには凝固能的にも欧米人と大きく異なるため、欧米におけるエビデンスがそのまま適用されない可能性もあり、日本における EVAR を詳細に解析する重要性は極めて高いと考えられる。そこで今回われわれは、慶應義塾大学外科関連多施設における EVAR の特徴およびその成績を検討するために、開腹手術を含む大動脈瘤治療全症例を、共通の台帳を用いて詳細に解析したい。</p>
研究の内容	<p>慶應義塾大学外科関連多施設において施行された大動脈瘤治療を解析し、EVAR を中心に、その特徴および成績を検討する。</p>
個人情報の取扱い	<p>本研究で得られるデータを、当該研究課題の範囲外で使用する可能性、当該研究の研究従事者以外が使用する可能性はない。</p> <p>本研究により得られた匿名化された個人データは当施設では担当責任者新谷が保管する。本研究の終了 5 年後まで保存するが、廃棄にあたっては外部記憶装置に保存された個人データは全て消去し、記録文書やメモ類は全てシュレッダーで粉砕処理する。解析に用いるコンピューターにはデータが漏洩する危険を回避するために適切な対策（最新版のウィルス対策ソフトウェアのインストール）を行う。</p>
問い合わせ先 (拒否等受付窓口)	<p><b>【研究担当者】</b>      所属：静岡赤十字病院 血管外科      氏名：新谷 恒弘      住所：静岡県静岡市葵区追手町 8-2      電話：054-254-4311</p>